

事例21 題材「音楽の楽しみ」

「ラヴァース コンチェルト」を合奏しよう

音楽 第2学年

羽咋市立邑知中学校・教諭

1 事例の概要

本校は、平成14年度から国・数・英で習熟度別少人数指導を研究してきた。その中で、等質のグループで学習することにより、指導・支援が行き届き、一定の効果があるという結果が得られた。これを踏まえて音楽科では、「A 表現」の領域の中でも「器楽」にしぼり、音楽を楽器で表現できる生徒を育てたいと考えた。

本校の生徒は、楽器に対して大いに興味があるが、技能については読譜力や運指など音づくりに至るまでの段階で様々な生徒が混在している状態である。

そこで、本事例では、それぞれの技能に応じた楽譜や楽器を用意し、「これならできる。」と思うものを自分で選択できるようにした。さらに、同じ楽器を選ぶ者同士がグループになり、共に教え合うことで、生徒一人一人が楽器と楽しく関わりながら主体的に活動できるようにした実践である。

2 実践の内容

(1) 題材の目標

楽器の特徴を生かし、奏法を工夫してより楽しく音楽を表現することができるようにする。

(2) 指導上の工夫点

① 指導法の工夫

- ・各楽器の習熟状況について、実態把握のためワークシートを用いて技能についての自己理解を促し、自分に合った楽器を選択できるようにした。
- ・範奏CDや原曲、アレンジされた「ラヴァースコンチェルト」を毎時間少しずつ聴き、豊かなイメージを持たせるようにした。

② 意欲を向上させる工夫

生徒が希望する楽器をすべて取り入れた。例えばエレキギターなどの電子楽器や様々な打楽器である。バランスが悪いときは、曲に合うようにパート内で表現方法を工夫させるようにした。

③ 学習定着の工夫

ア 学習のルール作り

パート練習ではパートリーダーを選び、リーダーを中心に技能を教え合ったり、意見を交換できるようにパート内の雰囲気づくりやルールづくりを指導した。

イ 合奏できる環境作り

技能の段階に応じた楽譜をつくったり、模造紙にパート譜を書いて掲示したりするなど演奏しやすいように工夫した。

④ 評価の工夫

ア 自己評価

ワークシートに、1時間ごとの学習の様子と自己評価を書き込むことにより、自分に合った楽器の選択や段階ごとの評価をすることができるようにした。

イ 自己評価を生かした授業の組み立て

上記の自己評価に目を通すことで、つまづいている部分をより明確に把握し、次時の指導に生かした。

3 指導の実際

段階	配時	学習内容・活動	評価場面・評価の方法及び支援
展	10	2 本時の課題をつかむ。	<p>〇〇な感じで自分たちだけの「ラヴァースコンチェルトを」合奏しよう。</p> <p>・元気よく合奏できるように明るい雰囲気にする。</p>
	15	3 パート練習をする。 [楽器別・等質のグループ活動] ・リコーダーグループ リコーダー①(難度B)②(A) ・打楽器グループ ティンパニ(B)その他(A) ・バンドグループ ギター・ベース・ドラムセット(C)	<p>評価観点①いろいろな楽器に興味を持ち、合奏表現することに意欲的である。</p> <p>場面設定 _____ 【行動観察】 パート別課題に沿って意欲的に練習する。 【表現活動】</p> <p>評価規準 A：曲想を工夫しながら意欲的に練習している。</p> <p>〇楽器の奏法でつまずいている生徒には階名・リズム・運指・バランスなどを適切に指導した。 ＜Bに引き上げるための具体的な手だて＞</p>
開	10	4 合奏する。[一斉] (ビデオ撮り) (A)(B)(C)は奏法における技能的な難度を示している。 難度の高いものC～低いものA	<p>評価観点②楽器のバランスや奏法を組み合わせながら曲想を工夫している。</p> <p>場面設定 _____ 【行動観察】 パート練習の成果を発揮し、合奏する。 【表現活動】</p> <p>評価規準 A：全体のバランスや曲の流れを大切に演奏している。</p> <p>〇本時の課題を確認しながら、指揮や動作など体全体で曲想を感じることができるよう助言した。 〇主旋律を聴きながら演奏するように助言した。 ＜Bに引き上げるための具体的な手だて＞</p>

C-1 指導案

C-2 ワークシート

C-3 編曲楽譜

4 成果と課題

(1) 成果について

- ・自分に合った段階や楽器を自己選択させたことにより、意欲を失わずに生き生きと活動する場面が見られた。
- ・おもにパート練習の中で自分たちの表現を工夫したので、人の音をよく聴くようになったり、速度や強弱の記号にも気をつけるようになった。
- ・等質のグループ練習は適切に指導でき、生徒もお互いに助け合い、技能の向上につながった。
- ・ワークシートから生徒の習熟の状況を把握することができ、指導と評価の一体化につながった。

(2) 課題について

他にも楽器別・等質のグループ活動ができる教材がないかどうか再検討して研究・実践を続けていきたい。また、有効に活用できる場面などを、さらに研究していきたいと思う。